



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス

<http://www.hovukai.org/>

第74号

発行:2012年6月15日

発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守



認知症の看護師のやりがい

～BPSD（認知症の行動・心理症状）への対応～

横浜ほうゆう病院 西3病棟科長 原科 美津枝

私が横浜ほうゆう病院に入職するきっかけは両親の介護経験からでした。父に認知症様症状が出た平成8年当時は「認知症」に対する世間の認知度はまだ低く、父も認知症とは言われませんでした。現在、認知症は国の広報の影響もあり、広く世間に知られるようになりました。しかし「どこに相談に行けばよいか分からなかった」など病名は知られても認知症の実態は不十分のようです。認知症の看護に就いて7年余りの私ですが、少し認知症の看護について紹介したいと思います。

横浜ほうゆう病院は認知症の専門病院です。平成23年7月からは215床に増設されました。入院してくる患者様はもの忘れなどの見当識障害や徘徊・大声など認知症の行動・心理症状（以下BPSD）の方がほとんどです。私たちの役割は速やかに症状を軽減し地域や社会で生活できるように援助する事です。

患者様が入院するとまず介護拒否や衝動的行動など解決すべき事柄を抽出します。それに対して看護を考えるわけですが、そこが難しいのです。BPSDには誘因・原因があります。その誘因・原因が分からないと症状はなかなか改善しません。BPSDの主な誘因・原因は薬物の副作用やストレス・不安・体調不良などと言われます。私たちは個々に何がBPSDに影響を与えているかを探るわけです。そのために家族から生活歴や病前性格など患者様の人生のありよう（個人史）を聞き取ります。また患者様の言動を見守り、その行動を観察し原因を探します。それらの事実を根拠として誘因・原因を決定し、ケアに生かし症状の改善を図り退院へと導きます。

たとえば、以前入院時にうつむいたまま首が動かない状態の患者様がいました。入院後の行動を観察していると、スタッフに「あんたは臭いのだよ」など暴言を言い、こちらの反応を見ている様子が見られました。このような反応を「試し行動」と言い、

環境の変化などによる不安からこのような行動になりやすいと言われていました。そこで入院までの経過を見ると物忘れが出て田舎から神奈川の家族に引き取られ、その頃から症状が悪化したようでした。その事から生まれ育った土地から神奈川に出てきたことによる環境の変化と不安が原因と考え「大丈夫ですよ。私たちが見えていますから出来ますよ」と安心される言葉と共に同年代の患者様と過ごせるように食事の席を工夫し、作業療法に参加するように進めました。2週間ほどで首は上向きになり1か月で日常生活は自立し、暴言も無くなりました。また最近では認知症だけでなく合併症を持った患者様が増えています。一般にBPSDの誘因をケアによるものと思ってしまう傾向がありますが、不穏の状態入院した患者様が糖尿病のコントロールを行い血糖値が安定したことで不穏状態が無くなることもありました。

このように、BPSDを起こす誘因を見つけ出し対応することで症状が落ち着くことが多いのです。もちろん、対応だけでは症状を改善するのは無理です。薬物の調整や作業療法などの治療が必要で他職種との連携を大切にしています。

認知症の看護はうまくいく事ばかりではありません。ただ、患者様やご家族が退院時に「ここの先生や看護師さんのおかげで良くなった」と言って下さると、自分たちの看護が効果的であったと思え、認知症の看護をしていてやりがいを感じる瞬間です。

認知症は2035年には350万人を超すと言われていきます。認知症の患者様には地域で生活できることが一番よい治療になります。そのためには早期発見・早期治療が重要です。

また、BPSDがあり日常生活が困難になった場合、速やかに専門病院で治療を受け、地域に帰れるようにすることが大切と考えています。横浜ほうゆう病院が地域に根差して認知症の普及に貢献できればと思います、今日も患者様と楽しい会話をしたいと思います。

鵬友会 研修レポート

～横浜ほうゆう病院 作業療法士（OT）・精神保健福祉士（PSW）研修～

認知症専門病院の中でのOT・PSWの役割について、事例検討等を通じ、認知症医療や認知症作業療法における専門知識を深め、横浜ほうゆう病院が目指す“チーム医療”の実現に寄与することを目的に、全4回にわたる研修会を行いました。

【OT研修】 事例検討では、前頭側頭型認知症について患者の症状を時系列で紹介。医師の助言のもと、アルツハイマー型認知症との特徴の違いなど、医学的根拠に基づいて分析することができ、より専門的な理解へと深めることができました。



助言者：
横浜ほうゆう病院 藤澤 名誉院長



第4回OT研修風景



第4回PSW研修風景

【PSW研修】 地域連携をテーマに掲げ、PSWとしてどんなことがしたいのか、日々の葛藤など一人ひとりの思いを共有し、診療報酬改定を受けて、患者の人権擁護を大切にしながら、いかに日常業務を改善していけるかを議論しました。

チーム医療では、医師や看護師が主体となりがちですが、各人が専門職としての誇りを持ち、発言していくことが良いチーム医療を行う上で必要不可欠であると改めて感じる研修会となりました。

認知症家族講座 開催のお知らせ

横浜ほうゆう病院

認知症に対する不安や問題を抱えている方を対象とした講座で、月に1回11月までに全7回の開催を予定しています。

この講座では、医師などの専門スタッフから情報提供を行いながら、同じ悩みを持つご家族同士の交流を図っていきたいと思っております。お問い合わせやお申し込みはお電話にて承っておりますので、皆様是非ご利用下さい！

※2回目以降の日程（予定）

・7/28、8/25、9/29、10/20、11/24

残り1回は市民講座として開催（日にちは未定）

◆原則 毎月第3土曜日 13:30～15:00
横浜ほうゆう病院内で開催します！

第1回（全7回）

認知症を知る

疾患の特徴・治療の内容など

日時：6月23日（土）

13:30～15:00

場所：横浜ほうゆう病院内

費用：200円（資料代）

お申し込み・お問い合わせ先

045-360-8787

横浜ほうゆう病院 看護部 村山